



デジタル印刷は
ここまで進化した！

最近の印刷業界では、コンベンショナル印刷という言葉が使われだしています。伝統的ということで、従来の活版印刷・オフセット印刷・シルク印刷・グラビア印刷等を一括して言います。対峙するのは無版方式のデジタル印刷です。遊文舎では現在、オフセット印刷機3台・デジタル印刷機6台の構成となっていますが、生産量ではオフセット印刷のほうがまだまだリードしています。今後のデジタル印刷への分岐点はどうなのか。この度、総勢7人で東京メーカー2社を訪問し、最新鋭デジタル印刷機のデモを体験してきました。

大量部数はオフセット、少数はデジタルというのが一般的な認識ですが、今回のデモでは、ただ単に「少数（多品種）のためのデジタル」ということだけではなく、デジタル印刷機自体の性能や色再現の素晴らしさを改めて体感しました。

従来は、A3（菊4）までのサイズが上限だったのに対し、A2ワイドやB2、長尺まで印刷できるように進化していました。また、色再現の面でも長期使用により起こる色差が最小限に抑えられたり、よりRGBに近いものが表現できたりと、昨今お客様が求める多様なニーズに対して、簡単、スピーディーに対応できるようになったと感じました。

ここが良い！と思ったデジタル印刷機

■「SCREEN ホールディングス XEIKON 9800」

ロールでの給紙が可能で、しかも両面同時印刷が可能。

- ①同じ用紙の印刷物を集めてジョブを用意すればほぼ連続的に印刷ができ紙積みなどの手間が軽減できる。
- ②両面同時に印刷できるので特にページものなどでは用紙の伸縮等による見当のズレが解消される。
- ③オフセットのようにインクの渴きを待たず、そのまま折り加工までワンラインで可能。
- ④ロール紙なので枚葉印刷のように2枚通しによるロスの心配がなく、薄紙も印刷ができる。

■「富士フイルム JetPress750S」

B2サイズまで対応でき、枚葉印刷でありながら印刷スピードも速く、また色の再現性は素晴らしい。

- ①広色域・高発色の水性顔料インクでプロセス（4色）印刷よりも再現性が広い（品質の向上）
- ②生産性を考慮し、印刷中の紙浮きなどを自動で修復（ダウンタイムの軽減）
- ③検知機能も優れておりノズル不良による超微細な白スジ等もスクリーンできる（検品作業の軽減・不良品混入を防ぐ）
- ④操作が簡単、またバーコードによる作業情報伝達など、熟練工でなくても高品質なものが安定して生産できる（品質の安定）

納期・コスト面でもユーザーライクに

いずれにしても生産性自体はまだオフセット印刷機には劣りますが、中間工程が省かれることにより他のワークフローにも影響し、納期等においてお客様への対応の幅を広げることができます。またオフセット印刷のように刷版（CTP）を必要としない等、製版料金が省かれることで従来の印刷積算方法を脱し、コスト面でも新たな価格帯を生み出すこともできると思いました。新たなテクノロジーですので、職業としても魅力が増すでしょう。

もちろん従来のコンベンショナル印刷にも素晴らしいメリットがあり、デジタル印刷と共存しながら発展していくことが大事なんですかね…。それにしても、情報を紙に転写する技術っていろいろあってすごいなあ～と改めて感じました。（こん）



大阪から5人、東京から2人の遊文舎メンバーがデモを体験させていただきました。

遊文Walker vol.1

国営昭和記念公園 コスモスマつり2019

長かった夏も去り、秋の涼しさを感じる時期となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、このコーナーでは93年生まれコンビの片割れ、中澤が関東のおすすめスポットを紹介してまいります。その第1弾は国営昭和記念公園のコスモスマつり2019です。

「秋桜」とも呼ばれるコスモスは7～11月にかけての開花時期が、「夏咲き（7～8月）」「早咲き（9月）」「秋咲き（10～11月）」の3つに分かれており、今の季節がちょうど見ごろとなっています。

コスモスといえば白やピンクといった色を連想する方が多いかもしれませんが、最近ではレモンブライトやイエローキャンパスという品種が存在し、レモンイエローの綺麗な花びらを見ることができます。

JR立川駅から歩くこと10分、昭和記念公園の「原っぱ東花畑」には一面にレモンブライトのコスモスが咲き誇り、壮大な景色が広がります。お天気のいい日に行けたら最高です！秋咲きのピンク色のコスモス、11月に入ると日本庭園を開放しての紅葉のライトアップなど、この後もまだまだ

だ見どころが控えております。

ちなみにコスモスの

花ことばは「真心」だそうです。来年になるとオリンピックも始まり、日本中が活気づくことが予想されますが、国外の方にも日本人が古来から大切に、美德とされてきた「真心」を感じていただきたいですね。

(中澤)



新 W 編集長ごあいさつ

この度『遊文通信』編集長に任命されました、中野瞬と申します。

遊文舎東京支店の営業として入社してまだ1年ですが、ものづくりを通じて、「笑顔」や「満足」を生み出せるよう、楽しみながら日々営業活動に邁進しております。誠心誠意一つ一つの仕事と向き合い最終的に「遊文舎にまたお願いしたい」と言って頂くことを目標にしています。

この『遊文通信』を通じて、普段の活動ではお伝えできないお役立ち情報、印刷の裏側やスタッフ紹介まで、おもしろいと言って頂けるような様々な発信をしていくつもりです。

大阪と東京二つで一つの遊文舎ですが、互いの特徴を生かすなかでも、今まで少なかった東京支店の情報を充実させていきたいと思っています。引き続き皆様にご愛読いただけるように精進してまいりますので、何卒よろしくお願いたします。

(中野 瞬)

左：中澤 雅彦
右：中野 瞬



今号から中野と共に『遊文通信』の編集長を務めさせていただきます。入社10ヶ月目、東京支店営業グループの中澤雅彦です。

毎日が勉強の日々ですが、佐地支店長をはじめとする遊文舎の仲間力を借りながら頑張っている最中です。

様々な方がバトンを繋いできた『遊文通信』を担当することに、少なからずプレッシャーを感じてはおりますが、皆様を楽しみながら読んでいただけるものを念頭に置いて、毎号の企画を練っていききたいと思います。

今回からは歴代初のW編集長ということなので、これまでの先輩たちの記事に負けず劣らず、更に良い内容をお届けできるよう、2人で尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いたします！

(中澤 雅彦)

● 編集後記 ●

真夏日で始まった10月も終わり、ずいぶん肌寒くなってまいりました。申し遅れましたが、わたくしW編集長の「中野」改め「まるめがね」と申します。なぜ、まるめがねかというと、お察しの通りです。この編集後記ではW編集長が隔号でお話させていただければと思います。最後までお楽しみいただければ幸いです。少しずつですが『遊文通信』を通して私のご紹介もさせていただこうと思っています。引き続きご愛読のほどよろしくお願いいたします。

(まるめがね)

◇ 今月の紙 ◇

シルバーダイヤ

菊判/76.5kg